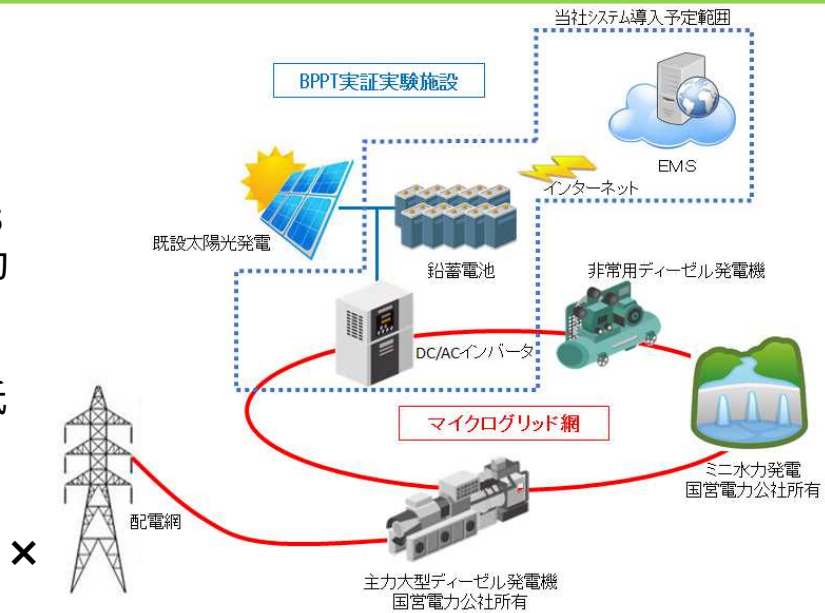


リノベーション・実証の概要

- ・インドネシアには有人の離島が多く、基幹送電網(グリッド)で電力を送れないため、主にディーゼル発電機で地域グリッド(マイクログリッド)を構成している。
- ・当社は再生可能エネルギー発電と蓄電技術を制御するEMS(エネルギー・マネジメント・システム)を開発し、自律的に24時間電力を安定供給する発電システムを国内で実現している。
- ・本プロジェクトでは、スバ島の政府実験施設において現地の環境に適合したEMS・ロングサイクル技術を施した蓄電池を低コストで導入するためのリノベーション及び実証を行う。
これにより、ディーゼル発電への負荷を低減することでCO2の大幅な削減を図る。



対象とする国・地域の概要



地図データ©2015 Google

インドネシア東部に位置するスンバ島は、国の再生可能エネルギー導入モデル地域で、政府の実験施設が存在する。

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化見込み

- STEP1: 現地政府機関(BPPT)と連携して、実証施設施工後にオペレーション&保守(O&M)の手法を確立。
- STEP2: 設計改良や現地生産の実施により低コスト化を実現。
- STEP3: 官・民市場での受注・販売。EPC/O&Mを担うSPC(特定目的会社)の設立を含めた事業スキームの導入。

普及の見込み

インドネシアでマイクログリッドに接続されているディーゼル発電機は4,600基に達している、2030年に10%以上の置換えを見込む。